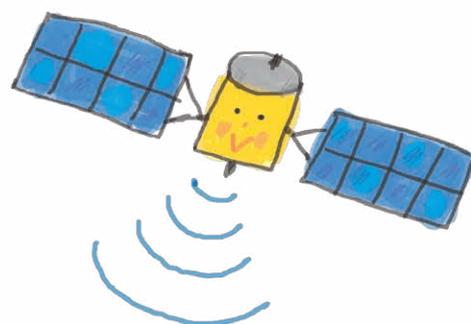




『聞き書きマップ』による 安全点検まちあるき 実施の手引き

科学警察研究所犯罪行動科学部長
原田 豊〈著〉



この手引き書のねらい

「いたましい事件や事故から、子どもたちを守りたい。」そう思わない人はいないでしょう。子どもたちの安全を守る取り組みも、全国各地で行われています。この手引き書は、そうした取り組みを、できるだけ効果的に、息長く進めていただけるために役立つことを願って作ったものです。

この手引き書では、まず、小さな子どもたちを事件や事故から守るためには安全な環境づくりが欠かせないことを説明します。つぎに、そのためのツールとしてわたしたちが開発した『聞き書きマップ』について紹介します。そして、『聞き書きマップ』を使った「安全点検まちあるき」をどのように進めていただきたいかについての、わたしたちの考えを説明します。これらを一通り読んでいただければ、身近な地域の安全を守る取り組みのために『聞き書きマップ』がどのように役立つかが、わかっていただけたと思います。

『聞き書きマップ』による 安全点検まちあるき実施の手引き

目次

- ① 小さな子どもを守るために、安全な環境づくりを …………… 2
- ② 『聞き書きマップ』で楽しく簡単に …………… 4
- ③ 『聞き書きマップ』を使った
安全点検まちあるきの流れ …………… 6
- ④ よりよい活用のために …………… 8

※この手引き書は随時改訂されています。

この手引き書の最新版は、web ページ「<http://www.skre.jp/>」をご覧ください。

① 小さな子どもを守るために、安全な環境づくりを

子どもたちのすこやかな成長は、すべての人の願いです。しかし、悲しいことに、小さな子どもが巻き込まれた事件や事故が後を絶たず、子どもたちの安全をどう守るかが、社会の大きな課題になっています。

事件や事故にあわないためには、子どもたちが自身が「自分の身を守る」力をもつことも大切でしょう。けれども、小さな子どもはとても弱い存在なのだということも、忘れてはならないと思います。

下の絵を見てください。小学校1年生と大人の男性との体格の違いは、ふつうの日本人とヒグマとの違いくらい大きいのです。どんな知識や技を学んでも、素手でヒグマと戦って勝てる人がいるでしょうか？



では、勝てるはずのない相手から身を守るには、どうするのでしょうか？ **いちばんいい方法は、そんな相手と「出会わない」ようにすること**です。だから、柵を作ったり、「熊に注意！」の看板を立てたり、猟師さんたちがパトロールしたりするのです。

事件や事故を減らすためにも、これと同じ考え方が大切です。危険と「出会わない」ように、子どもたちに身近な環境を改善するのです。

「安全点検地図」の良さと難しさ

危険にあいにくい環境づくりを進めるためには、大人たちが力を合わせて取り組むことが大切です。身近な地域の「安全点検地図」づくりは、そのためのとてもよい方法の1つです。地域のどこに、どんな問題があるかを、誰にもわかりやすく「目に見える」形で示せるからです。

しかし、これまでの地図づくり活動には、地図を作ることに自体に、手間や時間がかかりすぎるという問題がありました。そのほかにも、下の絵に示したような、いろいろな苦勞があり、だんだん活動が先細りになると聞くこともあります。これは、たいへん残念なことです。



このような問題点を克服するために、もっと無理なく続けられる、現場の「身の丈」に合った方法や道具を作れないものか。そのような考えから生まれたのが、「聞き書きマップ」というパソコン用のソフトウェアです。

『聞き書きマップ』で、こう変わる！

『聞き書きマップ』の開発にあたって、わたしたちがとくに重要だと考えたのは、つぎの3点です。

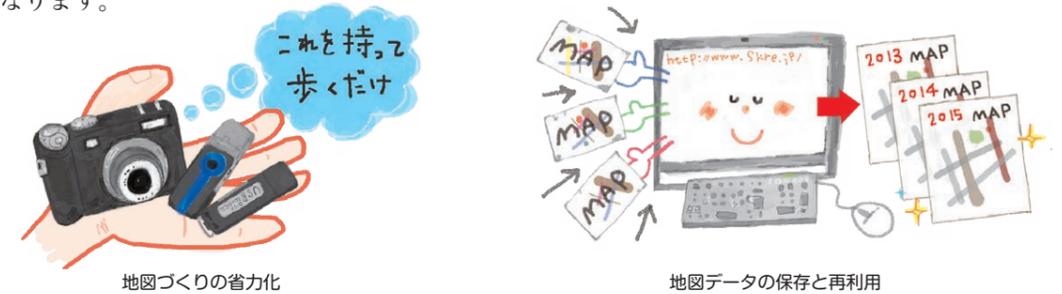
- (1) 安上がりであること（とくに、維持経費がかからないこと）
- (2) 現場の省力化に役立つこと
- (3) これまでの地図づくりのやり方を、なるべく変えないこと

『聞き書きマップ』を使えば、図1に示したような地図を、手間やお金をほとんどかけずに作るができます。



図1 『聞き書きマップ』で作った安全点検まちあるき地図の例

『聞き書きマップ』を使うことで、下の絵に示したような、これまでは難しかった多くのことが、できるようになります。



② 『聞き書きマップ』で楽しく簡単に

『聞き書きマップ』を使ってまちあるき記録を作るために、特別な機械や専門知識は必要ありません。また、『聞き書きマップ』をインストールしたパソコンなどを、いっしょに持って歩く

必要もありません。まちあるきに行くのは、図2に示すように、

①GPS受信機、②ICレコーダー、③デジタルカメラという「3つの小道具」だけです。

『聞き書きマップ』による安全点検まちあるきの地図化の手順

- ①GPS受信機で歩いた経路を記録→②撮影時刻で撮影地点を自動判定
- ③撮影時刻で録音を頭出し→④録音の内容を「聞き書き」



図2 『聞き書きマップ』による安全点検まちあるきの地図化の手順

① GPS 受信機

「GPS 受信機」は、人工衛星の電波を受信して位置を測定する装置です。最近では、三千元～四千元程度で、かなり良い性能のものが売られています。

② IC レコーダー

「IC レコーダー」は、デジタル式の録音機です。最近では、図2に示したような超小型でシンプル

なもの、通信販売などで二千元を切る価格で手に入ります。

③ デジタルカメラ

デジタルカメラは、みなさんがふだんから使い慣れているものを使っただけで十分です。よほどのオモチャでなければ、『聞き書きマップ』で使える「JPEG形式」の写真が撮れるからです。

持って歩くだけで、記録が取れる

これらの「3つの小道具」の電源を入れて持って歩けば、歩いた経路はGPS受信機が自動的に記録してくれます。また、写真を撮った場所も、GPSのデータを使って自動的に判定できるようになります。これだけでも、地図づくりの手間はだいぶ省けるでしょう。



まちあるきの際に気づいたことなどは、紙にメモする代わりに、ICレコーダーに声で録音します。こうすることで、たとえば雨の日などでも、無理なく現地の様子を記録することができます。



写真との連動で、効率的に「聞き書き」

メモを取るかわりに音声で記録すると言っても、何十分にもわたる録音を最初から最後まで聴き直すのは無理な話です。そこで、『聞き書きマップ』では、写真の撮影時刻を目印にして、写真を選ぶと、その写真を撮影した時刻まで、録音が自動的にジャンプするようになっています(図3)。

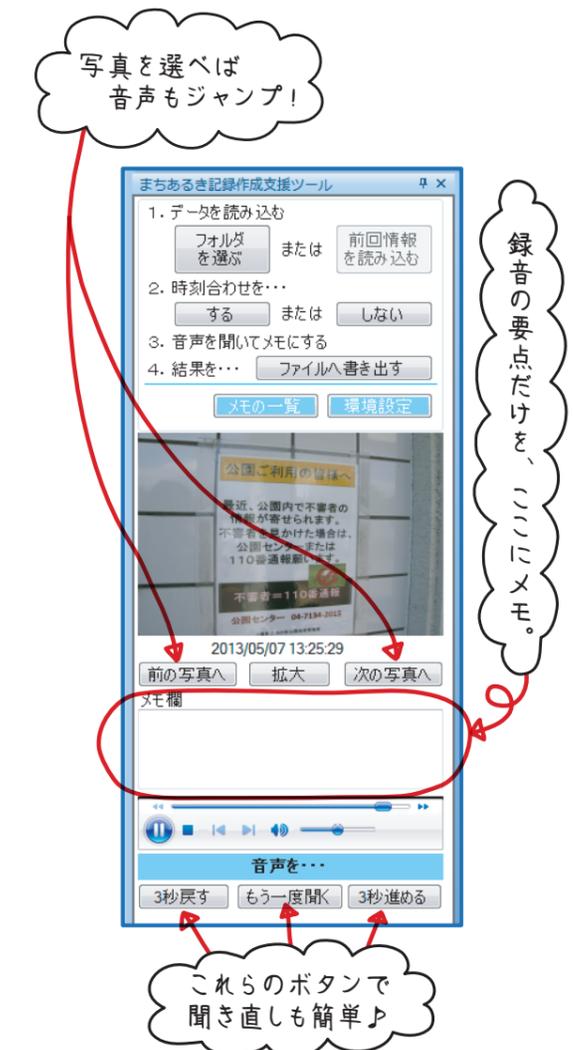


図3 『聞き書きマップ』の操作画面と「聞き書き」の手順

ほとんど

コラム：これだけあれば維持経費は「ゼロ」

これらの「3つの小道具」には、共通の特長があります。それは、維持経費がほとんどかからないことです。必要なのは、GPS受信機やICレコーダーなどの内蔵電池を充電するための、わずかな電気代だけです。

自主防犯活動などに取り組んでくださる方々に無理なく使っていただくために、これは何より大切なことだと、わたしたちは考えています。

③ 『聞き書きマップ』を使った安全点検まちあるきの流れ

安全点検まちあるきに『聞き書きマップ』を取り入れるために、これまでのやりかたを大きく変える必要はありません。むしろ、これまで使われてきた紙の地図などの良いところも生かせるように工夫したことが、『聞き書きマップ』の一番の特長なのです。

そこで、つぎに、『聞き書きマップ』を使って安全点検まちあるき地図をどのように作るかを、おおまかに説明します。

① 出発前に GPS 受信機と IC レコーダーを ON にする

まちあるきに出発する前に、GPS 受信機と IC レコーダーを ON にして、データや音声の記録を始めます。その後は、まちあるきを終えるまで、そのまま持ち歩きます。「防犯パトロールベスト」などの胸ポケットに入れておくのが、いい方法です。



② シャッターを切りながら「つぶやく」

まちあるきで見つけた危険箇所などの写真を撮り、それに続いて、気づいた内容を声で録音します。



③ パソコンにデータを取り込む

まちあるきを終えて戻ってきたら、GPS 受信機・IC レコーダー・デジタルカメラから、パソコンにデータを取り込みます。パソコンで文章を書いたことがあるくらいの人なら、3～5分くらいでできると思います。これで、『聞き書きマップ』を使う準備は完了です。



④ 写真を選んで「聞き書き」する

『聞き書きマップ』を使って、録音した音声を再生し、その要点を、コントロール画面の「メモ欄」にキーボードから打ち込みます。一言一句を書き取る必要はありません。現地でノートにメモする程度の内容が記録できれば十分です。

⑤ 「カード型一覧」として印刷する

『聞き書きマップ』には、こうして「聞き書き」したメモを、一連番号つきの写真とともに、図4のような「カード型一覧」として印刷する機能が備わって

ます。これをハサミで一つ一つのカードに切り離せば、紙の地図の上に自由に貼り付けられるわけです。

⑥ 地図の仕上げは手仕事で

こうして作ったカードを、GPS 受信機で記録したまちあるきの経路入りの地図の上に貼り込んでいけば、安全点検まちあるき結果の地図ができます。

この、地図の仕上げの作業を、手仕事で行えるようにしたことが、『聞き書きマップ』のとても大きな特徴なのです。



図4 カード型一覧の形に整形したプリントアウトの例

コラム：現場では「何もしない」のが一番

『聞き書きマップ』を使うために、まちあるきの現場で行うことは、ただ一つ。

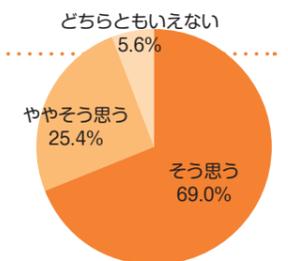
「シャッターを切りながら「つぶやく。」

これだけです。まちあるきの「現場」で、これ以上複雑なことを「やってはいけない。」それが、たくさんの失敗を重ねたうえでたどり着いた、わたしたちの結論なのです。

コラム：学校の先生方は…

首都圏のある県で、学校の先生方73人に『聞き書きマップ』を体験していただいた後、アンケートに答えていただきました。その結果、「これまでの地図作りよりも手間が省ける」に「そう思う」と回答した人が、右の円グラフのとおり、約7割でした。

また、「子どもの事故や被害防止に役に立つ」や「通学路の安全点検に役に立つ」に「そう思う」「ややそう思う」と回答した人の合計も、9割を超えていました。



④ よりよい活用のために

これまでの説明で、『聞き書きマップ』を使えば、身近な地域の安全点検の結果を、手間やお金をほとんどかけずに、わかりやすい地図として示せることが、わかっていただけたと思います。

しかし、安全点検まちあるきの本当の目的は、きれいな地図を作ることではありません。まちあるきで見つかった問題点を1つ1つ改善する取り組みと結びついてこそ、安全な地域づくりのために役立つのです。『聞き書きマップ』で作る地図は、紙の地図としても、パソコン上の「地図データ」としても活用できますから、たとえば、次のようなやりかたで、安全な環境づくりの取り組みに結び付けることができます。

① 最初のまちあるきで、地域の問題の「改善計画マップ」を作る

『聞き書きマップ』で記録した内容は、前のページの図4のような「カード型一覧」として印刷できます。これらを切り離して作ったカードは、か

なりの枚数になるのがふつうです。1回のまちあるきで50枚以上になることも、よくあります。

そこで、これらをすべて地図に貼るのではなく、それぞれのカードの写真やメモを見ながら、皆さんで話し合っ、たとえば「重要性や緊急性の高いものから順に10枚」くらいだけを選んで、地図に貼り込むようにしたらどうでしょう。

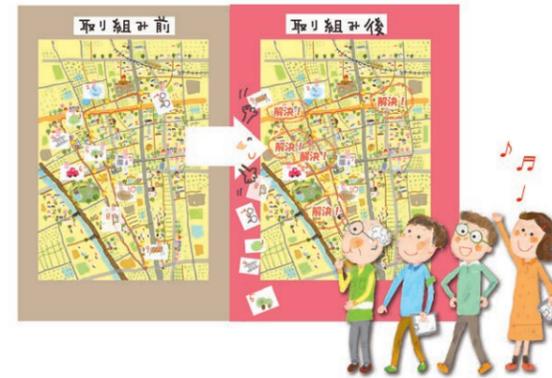
② 「改善計画マップ」にもとづいて、問題解決の取り組みを行う。

こうして「改善計画マップ」ができたら、そこに示された計画に沿って、地域の環境改善の取り組みを進めます。目標とする期間(たとえば1年)を決めておき、必要に応じて、取り組みの進みぐあいを確認する会合などを、その期間中に何度か行うのも、いい方法だと思います。もし計画より早く解決した問題などがあつたら、地図に貼ったカードの上に「解決！」などマークを付けるのも、いいかもしれません。

③ 一定期間後に再度まちあるきして、「問題解決マップ」を作る。

目標に定めた期間(たとえば1年)が経つたら、前回のまちあるきで記録したデータを再利用して、同じ経路をもう一度歩いてみてはどうでしょう。そして、前回見つかった問題点が今回までにどのように改善されたのかを、『聞き書きマップ』でもう一度記録するのです。

こうしてできた「問題解決マップ」を、前回作成した「改善計画マップ」と並べて展示すれば、取り組みの成果を、誰にでもわかる形で「見える化」することができます。



ここで紹介した活用方法は、あくまでも、『聞き書きマップ』の使い方の一例です。実際には、それぞれの地域や関係者の皆さんの事情や考え方に合わせて、無理なく続けることが、何より大切だと考えています。

さらに詳しく知りたい方は…

この手引き書で紹介したパソコン用のソフトウェア『聞き書きマップ』は、わたしたちの研究成果公開サイト『科学が支える子どもの被害防止』(<http://www.skre.jp>)から、無料でダウンロードして使っていただけます。

また、同じサイトに掲載されている、以下の2つの「マニュアル」も、ぜひご覧ください。

●安全点検マップ作成ツール使用マニュアル

『聞き書きマップ』の使い方の詳しい手順を説明しています。

●安全点検マップづくりワークショップマニュアル

『聞き書きマップ』を使った安全点検まちあるきワークショップの行い方について説明しています。

結びにかえて

この手引き書では、はじめに、小さな子どもたちを事件や事故の被害から守るために、大人たちが力を合わせて、安全な環境づくりをすることが大切であることを説明し、そのために、わたしたちの『聞き書きマップ』をどのように活用していただけるかについて、できるだけわかりやすく紹介しました。

このささやかな手引き書が、子どもたちの安全を守るという、皆さんの大切な取り組みに、少しでもお役にたつことを、心から願っています。

下記のホームページもご覧ください。

<http://www.skre.jp>

コラム：世代間の役割分担で、後継者育成も!

『聞き書きマップ』を使ったまちあるきでは、地元を熟知した年配の方と、パソコンなどに強い若手の方とでコンビを組み、年配の方には「語り手」役、若手の方には、主に「聞き(書き)役」をやっていただくのがお薦めです。それによって、地元をよく知る方ならではの貴重な「証言」を得ることができます。また、その過程で、世代を超えた尊敬と信頼の念が育ち、ひいては地域の安全確保の取り組みを担う「後継者」の育成にもつながると考えられます。





■この手引き書についての問い合わせ先

.....

この手引き書の最新版は、「予防犯罪学推進協議会」が運営する研究成果公開サイト『**科学が支える子どもの被害防止**』に掲載されています。ホームページのアドレスは下記のとおりです。

<http://www.skre.jp>

このホームページの左上にある「マニュアルの最新版はこちら」のボタンをクリックしていただければ、「マニュアルダウンロード」のページが表示されます。

また、この手引き書についてのお問い合わせなどは、上記ホームページの「メニュー」から、「お問い合わせ」をクリックし、表示されるフォームを使ってお送りください。

この手引き書を活用した研究の成果を論文等で公表する際には、下記の出典を明示してください。
原田豊（2015）『「聞き書きマップ」による安全点検まちあるき実施の手引き』、(<http://www.skre.jp>)、9p.